

令和6年度 島根県教育センター長期研修員 研修報告 概要一覧

■島根県教育センター

研究主題：不登校の子どもたちへの支援

～社会的自立に向かうための自己表現につながる関わり～

長期研修員 小山 朋子（松江市立第一中学校）
（教育相談スタッフ特別支援教育セクション）

【 要 旨 】

本研修は、不登校や教室に入りづらい状態にある子どもたちへの支援について、考え整理することを目的としている。書籍や文献、各種研修会への参加、島根県教育センターの教育相談スタッフ・教育相談員や所属校の別室登校生徒担当教職員へのインタビュー、来所教育相談での実践等で学んだことから、子どもが自己表現したことをもとに大人が子どもを理解し関わることについての心構えや手だてについて考えを深めた。また、子どもたちを支えていくために必要な教師としてのあり方について、考えたことをまとめている。

【キーワード】

不安と行動 自己表現 関わり 感情の言語化

研究主題：子どもを深くみつめる

～発達障がいのある子どもを中心に～

長期研修員 山中 あゆみ（松江養護学校）
（教育相談スタッフ特別支援教育セクション）

【 要 旨 】

本研修は、発達障がいのある子どもを中心に、一人一人の子どもの内面とじっくりと向き合い理解するために、自分の捉え方や関わりを見つめ直すことを目的としている。来所教育相談や、発達障がいのある子どもと関わった経験のある方々へのインタビュー、研修を通して得た学びをもとに、子どもを「深くみつめるサイクル」と「内面への関わり」の在り方を整理し、図示した。また「深くみつめる」の視点をもとに、子どもの「内面へ心を寄せた関わり」について自身の事例をもとに振り返りまとめている。

【キーワード】

内面 心を寄せる 体験・気持ちの共有 受け止める 信頼関係

■島根県教育センター浜田教育センター

研究主題：安心と意欲を育む関わり

～自らの関わりを見つめ直して～

長期研修員 洲濱 豊明（邑南町立口羽小学校）
（教育相談スタッフ）

【 要 旨 】

本研修で私は、本当に子どものためになる関わりとはどのようなものか、子どもが大切にされたと感じる関わりについて、自らの関わりを見つめ直しながら探ることとした。まず、安心と意欲を育む関わりについて文献調査を行った。同時に、自らの関わりの癖を探りながら研修や傾聴演習を繰り返し、非言語的コミュニケーションや伝え返しなどへの意識を高めた。調査、実践、振り返りを繰り返す中で、傾聴の姿勢が生徒指導や人権尊重につながるという気づきを得た。また、授業実践を通して、子どもの思いと教師の捉えのズレがないか確認することや、子どもの自己成長力を信頼して関わる姿勢の大切さを理解した。また自分の関わりについて新たな気づきを得たり、担任が抱え込まず教職員全体で子どもたちを支えたりしていくためにも、チーム連携の重要性について認識を深めた。

【キーワード】

子どものため 子どもが大切にされたと感じる関わり 傾聴の姿勢 チーム 連携

研修主題：知的障がいをもつ生徒が主体的に学ぶ自立活動の取り組みを探る

長期研修員 塩満 由梨（島根県立石見養護学校）
（教育相談スタッフ）

【 要 旨 】

本研修は、知的障がいをもつ生徒が、自立活動で学んだことを日常生活や他の学習場で生かすことを目指し、主体的に学ぶ自立活動の在り方を探ることを目的としている。協力校で教師と連携を図りながら、生徒の実態把握や授業構想を行い、それらを踏まえた上で、心理支援の工夫やセルフアドボカシーの視点を取り入れた自立活動の授業実践を行った。授業実践の検証では、学習指導要領や過去の経験からまとめた「1教材」「2環境」「3目的」「4興味関心」の「主体的な姿を引き出す4つの視点」から、授業実践の具体的な手立ての成果と課題を整理した。また、授業実践のアンケートを対象生徒に実施し、授業実践に関する生徒の考えを把握した。この2つの検証から、「主体的な姿を引き出す4つの視点」は適当であると考えられた。他にも、生徒が自立活動に対してどのような考えを持っているのかアンケートで把握したり、対象生徒と教師にインタビューを行ったりすることで、それぞれの考えを今後の自立活動に反映させていく。

【キーワード】

自立活動 知的障がい 主体的な姿 心理支援 セルフアドボカシー